

検印

第6学年2組 体育科学習指導案

平成25年10月1日（火）第3校時 体育館
男子18名 女子17名 計35名
授業者 教諭 辻浦綾乃

1 単元名 バスケットボール （ボール運動・ゴール型）

2 運動の特性

（1）一般的特性

- ・集団対集団がボールを媒介にして、個人的技能や集団的技能による攻防を繰り返す運動である。
- ・互いに相手のゴールにシュートを決めることによって勝敗を競うところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
- ・走る・止まる・跳ぶ・投げるといった多彩な動きを必要とする運動である。
- ・敏捷性・巧緻性・瞬発力・持久力などの総合的な身体能力が養われる運動である。
- ・相手との接触も多く、公正な態度、安全への留意が要求される運動である。

（2）児童から見た特性

- 得点競争が楽しい運動である。
- シュートが決まると楽しい運動である。
- パスがつながると楽しい運動である。
- ドリブルで相手をぬけると楽しい運動である。
- 仲間と協力し合ってゲームや練習に取り組めると楽しい運動である。
- チームで作戦や練習を工夫し、ゲームに勝つと楽しい運動である。
- △負けが続いたり、チームワークがうまくいかなかったりすると、つまらない運動である。
- △失敗したときに友だちにせめられると、つまらない運動である。
- △自分にパスが回らずにボールにさわれないと、つまらない運動である。

3 児童の実態

（1）一般的な児童の実態

本学級の男子は、明るく活発的な児童が多い。休み時間には大人数で外遊びをしている。1学期後半から、ボールを用いて遊んでいる姿をよく見る。朝マラソン等はめあてを持って進んで取り組んだり、継続して意欲的に取り組んだりしている。一方で女子は、おとなしい児童が多い。教室内にいることを好み、人に言われたり誘われたりすると外に出るが、進んで運動をすることは好まない。

ボール運動においては、個人差や男女差が非常に大きい。特に女子の中には、ボールを投げたり捕ったりすることを怖がる児童も多くいる。日常生活の中で、ボールに触れる機会が少ないことが原因のひとつと考えられる。ボールに慣れ、楽しく進んで活動に取り組めるよう、教具や場の設定の工夫が必要である。

また、攻撃的な発言が目立つ児童や他人の気持ちを考えることができない児童、言葉を発しない児童、非協力的な児童等、様々な児童がいる。全員が協力し、互いに高め合いながら集団競技であるバスケットボールを行えるよう、一人一人の児童への配慮も大切にしたい。

体力測定結果（平成２５年４月３０日実施）

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
本学級	16.39	21.94	34.67	43.39	64.28	9.03	168.22	25.83
県平均	19.40	23.06	35.73	47.26	65.08	8.87	166.54	26.32
比較	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○	▲

女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
本学級	16.5	19.06	42.56	42.24	48.5	9.13	158.94	14.29
県平均	19.28	21.36	40.87	44.53	52.21	9.13	159.03	16.06
比較	▲	▲	○	▲	▲	▲	▲	▲

○…県平均（H24）を上回った

▲…下回った

ほぼ全ての種目において、平均値を大きく下回っている。しかし、50メートル走やシャトルランは多くの児童が平均を上回っており、苦手な児童数人が極めて低いための結果と言える。握力や反復横とび、ボール投げは全体的に低い。これらの力を伸ばすための、継続的な取り組みが必要である。

（２） 本教材にかかわる児童の実態

体育・ゴール型ゲームに関する意識調査（平成２５年９月９日実施）

1 あなたは運動が好きですか。			
①好き	②どちらかというとき	③どちらかというとき嫌い	④嫌い
17人	10人	6人	2人

2 あなたはどんな運動が好きですか。（3つまで選択可）			
①体ほぐし運動	②体力を高める運動	③器械運動	④陸上運動
9人	9人	18人	16人
⑤水泳	⑥ボール運動	⑦表現運動	
21人	24人	6人	

3 あなたは「ゴール型ゲーム」は好きですか。			
①好き	②どちらかというとき	③どちらかというとき嫌い	④嫌い
21人	8人	3人	3人
<理由を書いて下さい。> ・おもしろいから ・ゴールを入れられたとき ・思いきりボールを投げる ・パスが出せたとき ・チームの役に立てたとき ・苦手だが協力するとやりがいがある		・ゴールが入らない ・パスが上手に出せない ・団体の競技はきらい ・ボールがこない ・パスがもらえない ・動き方が分からない ・ボールがこわい	

4 できなかったことをできるようにするため、今までに役に立ったものは何ですか。 (複数回答可)		
①学習カード・学習資料	②先生からのアドバイス	③友達からのアドバイス
2人	26人	13人
④休み時間の練習	⑤家庭での練習	⑥ビデオ、VTRなど
3人	19人	10人
⑦その他 5人 それは何ですか(家族のアドバイス、トレーニング)		

5 今まで体育の学習で、楽しかったこと・うれしかったこと、つらかったこと・いやだったことがありますか。(両方記入可)	
楽しかったこと・うれしかったこと	つらかったこと・いやだったこと
・友だちや先生にほめられたとき ・できなかった技ができるようになったとき ・目標が達成できたとき ・ゴールを決めたとき ・チームのために活躍できたとき ・ボールにさわれたとき ・速くなったことを実感できたとき ・自分のチームが勝ったとき ・友だちから「大丈夫だよ。」と言われたとき	・自分のチームからせめられたとき ・相手チームから「ずるい。」と言われたとき ・失敗を笑われた時 ・筋肉痛、・けがをしたとき ・組体操で痛かったとき ・努力しても、なかなか上達しないとき ・持久走など、たくさん走るとき ・パスが回ってこない ・チームが負けたとき

体育が「好き」「どちらかというと好き」と答えた児童は全体の8割に満たないが、本単元のゴール型ゲームに対しては、「好き」「どちらかというと好き」と答えた児童が8割を上回る結果となった。

好きな理由としては、「ゴールできた」「パスが出せた」「チームで協力できた」で、基本的な技能をゲームの中で発揮し、チームに貢献できることと言える。一方、嫌いな理由としては、「ゴールが入らない」「パスが出せない、もらえない」と逆のことが書かれていることから、自分がチームに貢献できていないと感じている児童が全体の2割いると考えられる。技能習得のための時間やチーム編成をする際には、十分な配慮が必要である。

技能習得に関しては、授業での教師からのアドバイスが必要であると考え、そこで習得できなかったときは、家庭での練習も必要だと考えていることが分かる。VTRなど視覚による情報が技能の向上に役立つととらえている児童も少なくない。

本学年の児童は、4年生のゴール型ゲームでセストボールを、5年生ではハンドボールを扱っている。しかし、バスケットボールは初めて取り組む単元である。そのことを十分にふまえ、多くの児童が「チームに貢献できた」と思えるような授業づくりをしていきたい。また、ルールを理解し、意欲的に取り組めるよう、オリエンテーション段階での工夫も大切にしていきたい。

4 教師の指導観

学校教育目標	思いやりのある子(徳) よく考える子(知) たくましい子(体)
研究主題	楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童の育成 —投力を重視したボール運動の展開—

【仮説 1】

児童の発達段階と個々の児童の実態を的確に把握し、一人一人を伸ばす指導法を工夫すれば、進んで運動に取り組む児童が育つであろう。

【仮説 1 への手だて】

○児童の実態把握

体力測定の結果、アンケート、テストゲームをもとに、児童一人一人の意識、技能、体力を把握する。

○一人一人を伸ばすための指導法の工夫

多くの児童は、「ボール運動が好き」だと思っている。一方で、「どう動いていいかわからない」「ゲームになるとなかなかボールに触れない」「ボールがこわくて捕れない」等、様々な理由でボール運動に抵抗を感じている児童もいる。また、児童は今回初めてバスケットボールの学習を行う。このことから、十分にオリエンテーションを行い、学習課程、教材・教具を工夫することが必要である。

バスケットボールの特性である、「パスをする」「シュートをする」「ドリブルをする」という基本事項を、単元の前半に習得させたい。そのため、第2時～第3時はパス、第4時～第5時はシュート、第6時はドリブルを中心に学習を展開していく。しかし、慣れの運動やパワーアップタイムで習得したことをゲームにつなげることが重要であるため、「パスを受けてからピボット」「パスを受けてからシュート」のように複数の動きをつなげた練習を行う。

「どこに動いたらいいかわからない」という児童が多かったこと、児童一人一人が責任をもってゲームに参加できるようにしたいということ、児童の運動量を確保したいこと、バスケットボールの特色である攻守の切り替えを行わせたいことから、ハーフコートゲーム、メインゲームではゾーンディフェンスを中心に行う。

【仮説 2】

児童の願いを生かし、児童が仲間とコミュニケーションを取りながら、計画的・継続的に運動を実践する場である環境整備を進めていけば、進んで運動や遊びに取り組む児童が育つであろう。

【仮説 2 への手だて】

○パワーアップタイムの工夫

ゲームに直接つながる系統性のある運動を、パワーアップタイムで行う。本時では、カラーコーンをディフェンスと見立て、パスを出す方向を考えさせる。このように次に直接つながる運動を継続的に行うことで、ゲーム内で進んで特性に合った動きをすることができるようになる考える。

○チーム練習の充実

第7時以降は、パワーアップタイムでチーム練習を行う。自分たちで声をかけ合い、課題を見つけて練習の場を設定する。互いに認め合い、教え合う態度が期待できる。しかし、課題設定が難しいチームには、教師が積極的にかかわる。

○活気のある授業を目指して

1 学期、児童全員に体育にふさわしい気持ちのよい言葉かけを考えさせた。自分たちで進んで声を出しながらゲームを行うことで、一人一人がモチベーションを上げて取り組むことができるであろう。活気のある授業を目指し、声出し、行動の素早さ、規律等しっかりと行わせたい。

【仮説 3】

児童自らが健康・安全について理解し、体力の伸びを実感できる活動の工夫をすれば、進んで運動に取り組む児童が育つであろう。

【仮説 3 への手だて】

○学習前と後の体力を測定する

タイムを測定することのできる陸上運動や、「できた」「できない」が具体的に分かりやすい器械運動等と比べ、ボール運動は児童が体力の伸びを実感することが難しい。そのため、単元の学習前の体力測定の結果と、学習後の結果を比較し、伸びを実感させたい。特に、バスケットボールは運動の特性から、瞬発力と短距離の走力の伸びが期待できる。

○準備運動のオリエンテーションを行う

健康・安全に学習に取り組めるよう、事前に準備運動のオリエンテーションを行った。各部位の可動性を十分に高めた上で安全に活動に取り組ませたい。また、児童一人一人が自分の体について考え、ケガを防げるよう意識させたい。

5 単元の目標

- (1) 役割を分担したり、教え合ったり励まし合ったりしながら、チームで協力して安全に気をつけて活動することをできるようにする。(関心・意欲・態度)
- (2) ルールを守り、審判の判定に従って公正にゲームをし、勝敗に対して正しい態度をとることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (3) チームの特徴や勝敗の原因を考え、作戦を工夫しながらゲームができるようにする。(思考・判断)
- (4) パスやシュートなどの基礎的なボール操作の技能を身につけるとともに、チームとして集団技能を生かしてゲームを行うことができるようにする。(運動の技能)

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
・役割を分担したり、教え合ったり励まし合ったりしながら、チームで協力して安全に気をつけて取り組もうとしている。 ・ルールを守り、審判の判定に従って公正にゲームをし、勝敗に対して正しい態度を取ろうとしている。	・チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。	・ゲームで攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きができる。

7 単元の計画

(1) ボール運動の取り扱い

運動／学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
ネット型	10			
ゴール型	8	26	14	14
ベースボール型	8		8	7

(2) 学習過程 (10時間扱い)

時間	1	2	③	4	5	6	7	8	9	10
0分 6分	集合・整列・挨拶・健康観察・準備運動・補強運動									
13分	オリエンテーション ・必要なものの準備 ・学習の内容、進め方を理解する ・準備、約束事の確認 ・慣れの運動、スキルアップタイムの行い方を知る ・ルール、コート ・今できる技能の確認 ・チーム編成 ・めあての設定	慣れの運動			慣れの運動			ねらい3 バスケットボールを楽しもう。 ・6－2 バスケットボール大会		
		(パスを強化)	(シュート)	(ドリブル)	(チーム練習)					
25分		ねらい1 ルールを知り、バスケットボールに必要な技能を身に付けよう。 ・パワーアップタイム(ドリル) パス→パス練習 パス→シュート練習 パス→ドリブル練習 ・タスクゲーム ハーフコートを使った2on1 ハーフコートを使った3on2 ハーフコートを使った5on3			ねらい2 チームの作戦を工夫し、ゲームを楽しもう。 ・パワーアップタイム(ドリル) チームごとに、ゲームにつながる練習をする。 ・メインゲーム フルコートを使ったゲーム					
40分 45分	学習のまとめ・振り返り・後片付け・整理運動・挨拶									

(3) 評価計画

時	重点観点	学習活動における具体的評価規準	評価の場面	評価の方法
1	関心・意欲・態度	・バスケットボールに関心をもち、学習の内容と進め方を理解し、見通しをもって意欲的に取り組もうとしている。	オリエンテーション	観察 問いかけ
2	運動の技能	・ゲームの行い方を理解し、ボールをコントロールして相手が捕りやすいパスを出そうとしている。	パワーアップタイム	観察 学習カード
③ 本時	運動の技能	・ボールを持っていない時に適切な場所に動くこと、適切な場所にパスを出そうとしている。	ハーフコートゲーム	観察 学習カード
4	思考・判断	・ゴールの近くでパスをもらい、シュートをすることを理解しようとしている。	ハーフコートゲーム	観察 学習カード
5	思考・判断 運動の技能	・シュートをするために、自分たちにあった作戦を考えようとしている。 ・落ち着いて、正確にシュートをしようとしている。	ハーフコートゲーム	観察 学習カード

6	運動の技能	・ドリブルの基本的技能を身に付け、必要に応じてボールを操作しようとしている。	ハーフコートゲーム	観察 学習カード
7	思考・判断	・ミニゲームをする際、ゲームの流れを判断し、攻守の切り替えを正確に行うことを理解しようとしている。	メインゲーム	観察 学習カード
8	関心・意欲・態度 技能	・ゲームを行う際、攻守の切り替えを正確に行おうとしている。 ・仲間に声をかけながらルールを守ってゲームに参加しようとしている。	メインゲーム	観察 学習カード
9	思考・判断	・チームで、メンバーそれぞれのよさを生かす作戦を考えようとしている。	メインゲーム	観察 学習カード
10	関心・意欲・態度 技能	・公正公平な態度で、チームで声をかけ合い、励まし合いながら、意欲的にゲームに取り組もうとしている。 ・ゲームで、攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きをしようとしている。	メインゲーム	観察 学習カード

(4) 学習と指導・評価

段階	学習のねらい・活動	指導 (○) 評価 (◆)	評価方法
はじめ 45分 × 1	1 学習のねらいや進め方を知り、単元の見通しを持つ。 ・ゲームに必要な基本技能を知る。 ・ゲームの方法とルールを知る。 ・学習のきまりを確認する。 2 チーム編成をする。(6チーム) ・男女混合5～6人 ・チームキャプテンを決める。 ・チーム名を決める。 ・ビブスの色、コートの使い方等を決める。 3 テストゲームをする。 実際にゲームを行って、ゲームに慣れる。 教師は児童の実態を把握する。	○バスケットボールの特性を理解させる。 ○学習のねらいと進め方を説明し、単元の見通しを持たせる。 ○背の高さ、体力測定の50m走の結果、性格等を考慮してチームを決める。 (第1時) ◆バスケットボールに関心をもち、学習の内容と進め方を理解し、見通しをもって意欲的に取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】	・観察 ・問いかけ

な か ① 45 分 × 5	ねらい① バスケットボールの特性を理解し、必要な技能を身に付ける。 1 準備運動・補強運動・慣れの運動 2 めあての確認 3 パワーアップタイム（ドリル） ・パス→パス練習 ・パス→シュート練習 ・パス→ドリブル練習 ・パス→ピボット練習 等 4 ハーフコートゲーム 5 学習のまとめ 6 後片付け、整理運動	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○児童が理解しやすいように写真やVTRを例示する。 ○チームで協力して、取り組ませる。 ○安全に、適切に行わせる。 ○協力して取り組み、動きが高められているチームを称賛する。 ○苦手意識をもっている児童に対し、声かけをする。 ○挨拶をしっかりと行わせる。 ○ルールを守って取り組ませる。 ○チーム内で、積極的に声をかけ合わせる。 ○判定がもつれた場合や、トラブルになりそうな場合は、積極的に教師がかかわる。 ○自分のめあての達成状況を確認させる。 ○友だちのよかったところを見つけ、互いのがんばりを認め合わせる。 ○ゆっくりと行い、しっかりと筋肉をほぐす。 （第2時） ◆ゲームの行い方を理解し、ボールをコントロールして相手が捕りやすいパスを出すことができる。 【運動の技能】 （第3時） ◆ボールを持っていない時に適切な場所に動くこと、適切な場所にパスを出すことができる。	・観察 ・学習カード
----------------------------------	---	---	---

		【運動の技能】 (第4時) ◆ゴールの近くでパスをもらい、シュートをすることを理解している。 【思考・判断】 (第5時) ◆シュートをするために、自分たちにあった作戦を考えている。 【思考・判断】 ◆落ち着いて、正確にシュートをすることができる。 【運動の技能】 (第6時) ◆ドリブルの基本的技能を身に付け、必要に応じてボールを操作することができる。 【運動の技能】	
な か ② 45 分 × 3	ねらい② ルールを守って、バスケットボールを楽しむ。 1 準備運動・補強運動・慣れの運動 2 めあての確認 3 パワーアップタイム（ドリル） ・チーム練習 4 ゲーム 5 学習のまとめ	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○児童が理解しやすいように写真やVTRを例示する。 ○チームで協力して、取り組ませる。 ○安全に、適切に行わせる。 ○協力して取り組み、動きが高められているチームを称賛する。 ○苦手意識をもっている児童に対し、声かけをする。 ○挨拶をしっかりと行わせる。 ○ルールを守って取り組ませる。 ○チーム内で、積極的に声をかけ合わせる。 ○判定がもつれた場合や、トラブルになりそうな場合は、積極的に教師が関わる。 ○自分のめあての達成状況を確認させる。	

	6 後片付け、整理運動	○友だちのよかったところを見つけ、互いのがんばりを認め合わせる。 ○ゆっくりと行い、しっかりと筋肉をほぐす。 (第7時) ◆ミニゲームをする際、ゲームの流れを判断し、攻守の切り替えを正確に行うことを理解している。 【思考・判断】 (第8時) ◆ゲームを行う際、攻守の切り替えを正確に行おうとしている。 【運動の技能】 ◆仲間に声をかけながらルールを守ってゲームに参加することができる。 【関心・意欲・態度】 (第9時) ◆チームで、メンバーそれぞれのよさを生かす作戦を考えている。 【思考・判断】	・観察 ・学習カード
まとめ 45分×1	ねらい③ バスケットボール大会を楽しむ。		
	1 準備運動・補強運動・慣れの運動	○一つ一つの動きを正確に行わせる。	
	2 ルールの確認	○ルールや、態度等のマナーを確認する。	
	3 バスケットボール大会	○挨拶をしっかりと行わせる。 ○チーム内で進んで声掛けをさせる。 ○作戦を意識し、協力してゲームに取り組ませる。	
	4 学習のまとめ	○友だちの良かったところや、自分のめあての達成状況等を確認させる。	

	5 後片付け、整理運動	(第 10 時) ◆公正公平な態度で、チームで声をかけ合い、励まし合いながら、意欲的にゲームに取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】 ◆ゲームで攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きができる。 【運動の技能】	・観察 ・学習カード ・問いかけ
--	-------------	---	------------------------

8 本時の学習と指導 (3 / 10 時)

(1)ねらい

○ボールを持っていない時に適切な場所に動くこと、適切な場所にパスを出すことができる。【運動の技能】

(2)準備

児童 学習カード、筆記用具、ビブス、体育館用スニーカー

教師 指導用太鼓、笛、得点板、カラーコーン、ストップウォッチ、バスケットボール (17 個)
 ホワイトボード、掲示資料 (めあて)

(3)展開

	学習のねらい・活動	指導上の留意点 (○)、評価 (◆) 努力を要する児童への手立て (△)
導入 6 分	1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。 2 本時のねらいや学習の進め方を確認する。 3 準備運動・補強運動をする。	○速やかに整列し、体育にふさわしい挨拶をさせる。 ○一人一人の顔色から健康状態を把握する。 ○服装、髪型を整えさせる。 ○前時までの活動を振り返り、本時の学習の意欲づけを行う。 ○一つ一つの運動を正確に行わせる。
展開 35 分	4 慣れの運動をする。 ① 近い距離でのバウンドパス ② 近い距離でのチェストパス ③ 左右に移動しながらのバウンドパス ④ 強いバウンドによる高いバウンドパス ⑤ 走りながらのバウンドパス ⑥ パス→ドリブル 5 本時のねらいを確認する。 ディフェンスの人の前や横に出て、積極的にパスをもらおう。 6 パワーアップタイム カラーコーンを置いて、パスの練習	○体重移動、ひじの動き、手の形を確認させる。 △特に配慮が必要な児童は、小さいボールを使わせる。 △苦手な児童には、教師が積極的に関わる。 ○声を出しながら、相手とコミュニケーションを取らせる。 ○めあてを提示する。 △児童をコートに座らせ、実際に見せながら説明する。 ○カラーコーンをディフェンスと見立てることを

	・カラーコーン（５個）を、ディフェンスと見立てる。 ・３人ずつ入り、パスをつなぐ。 ・２回パスをつないで、シュート。 7 ハーフコートゲームをする。 （ルール） ・人数 攻め５人 守り５人 ・試合時間 各２分 ２分間、攻めのチームはずっと攻め続ける。 ２分経ったら攻めと守りを交代する。各チームとも、攻めは２回ずつ行う。（前半、後半） ・得点 入る ２点 上からリングに当たる １点 ・試合に出ない児童が主審、得点係を行う。	確認し、パスができる位置を考えさせる。 ○３人ずつ入り、出ていない人にはどこに動けばいいか外からアドバイスをさせる。 ○声を出しながら取り組ませる。 ○足の運び方を意識させる。 △動き方が分からない児童には、積極的に教師が関わり、助言をする。 ○ゲーム前後の挨拶をしっかりと行わせる。 ○ルールを守り、運動にふさわしい態度で取り組ませる。 ○積極的に声をかけ合い、励まし合いながら取り組ませる。 △判定がもつれた場合やトラブルになりそうになった場合は教師が積極的に関わる。 △ボール運動が苦手な児童の伸びを認め、声をかける。 ◆ボールを持っていない時に、ディフェンスの前や横に出てパスをもらうことができる。 【技】 ◆適切な場所にパスを出すことができる。 【技】
整理 4 分	8 片付け 9 今日のまとめ ゲームの結果を伝え、めあてを達成した児童を賞賛する。 10 整理運動 11 次時の予告を聞き、終わりの挨拶をする。	○協力し合い、安全に手際よく片付けさせる。 ○本時の学習を振り返り、まとめをさせる。 ○めあてに対する本時の成果を学習カードに記録させる。 ○ゆっくり行い、筋肉をほぐす。 ○児童の努力を認め、次時への意欲づけを行う。 ○全員の健康状態を把握し、気持ちのよい挨拶で学習を締めくくるようにする。

[illegible]

